

自律的に行動する能力を身に付けるために  
—中国、インド、日本の大学の取り組み—

開倫塾  
塾長 林 明夫

## 1. はじめに

おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴きいただき、ありがとうございます。

先週の「開倫塾の時間」では、中国の天津で開かれたサマーダボス会議(ダボス会議の夏版)に参加したお話をさせていただきました。

私は、その会議でたくさんの方々とお話をし、また、いろいろな本や新聞を読んで、中国について多くのことを知りました。特に、中国では高校卒業後にどのくらいの方が大学に進学するのかということに関心がありましたので、いろいろ調べてみました。それでわかったことを少しお話いたします。

## 2. 自律的に行動する能力を身に付けるために—中国、インド、日本の大学の取り組み—

(1) 中国には、大学統一試験というものがあります。その試験の定員は 630 万人ですが、昨年は 1020 万人が受験したそうです。これは、日本の状況から考えるとすごいことです。

(2) 5～6 年前に OECD の IMHE(高等教育管理)プログラムのメンバーの一員として中国を訪れたときに、私は中国の大学をいくつか見てまわりました。そのときの関係者のお話では、「中国は、これから 2500 万人の大学生が学ぶような国にし、最終的には 1 学年 1000 万人にしたいのだ」ということでした。それから 5 年ほどで 1 学年 630 万人になっているのですから、4 学年合計では 2500 万人を超えています。最終的には 1 学年 1000 万人、4 学年合計では 4000 万人にし、それで人々の暮らしを豊かにして揺るぎない国をつくるのだと 5 年ほど前におっしゃっていたことが、いよいよ現実的なものになってきたなと感じました。

(3) 中国に次いで人口の多い国はインドです。インドでは、25 歳以下の若者が全人口の 60 %を占めているそうです。3 年ぐらい前にインドに行ったときに、シン首相が「インドの貧困を撲滅するためには、今後は科学・技術の発達を促進する必要がある。それには大学教育が不可欠で、現在不足している大学を 6 年間で 1600 校増やすつもりだ」と話されているのを聞きました。

(4) 今はどうなっているのかわかりませんが、また、短期間で急には実現しないとも思いますが、人々の生活を豊かにして国を富ませるといった目標を掲げて、高等学校を終えた後に大学・短大・専門学校などの高等教育機関に進学する方を増やそうとしています。

(5) 中国やインドは、国民の生活や国そのものを豊かにするには高等教育機関で学ぶ方の数を増やすことが最も重要であるという考え方のもとで、高等学校を修了した後の教育に熱心に取り組んでいます。

- (6)先程もお話しましたが、インドはこれから 1600 もの大学を新設しようとしています。おそらく 1 つの大学の定員は 1 万人から 3~4 万人と少しずつ増えていくでしょうから、1600 校では 2000 万人、3000 万人、4000 万人、5000 万人、6000 万人ぐらいにまでなると思います。つまり、インドでも、中国と同様に大学で学ぶ学生を 1000 万人単位で増やしていこうとしているのです。
- (7)次に、中国やインドでは大学に進学しようとしている方たちがどのくらいの時間を勉強に当てているのかをお話します。
- (8)中国に行ったときに、インドの大学の先生方と話す機会がありました。インドの高校生はどのくらい勉強しているかどうかをお聞きしました。すると、なぜそのようなことを聞くのかとびっくりされました。先生方がおっしゃるには「大学に行こうとしている高校生が勉強しないでどうするのだ。インドで最も難関とされるインド工科大学の定員は 4000 名だが、定員の 60 倍から 70 倍にあたる約 30 万人の高校生が毎年受験する。だから、そこを受ける高校生は朝から晩まで勉強し、それでも足りない睡眠時間を削ってまでも勉強する。」とのことでした。では、インドの大学生はどうか、インドの大学院生はどうかとお聞きしたところ、インドでは高校生よりも大学生、大学生よりも大学院生のほうが多く勉強しているというお話でした。さらに、大学や大学院を卒業して社会に出た方はどうかと尋ねたところ、その方たちも必死になって勉強や仕事をしているとの答えが返ってきました。
- (9)そのお話を聞いて、随分熱心に勉強する国があるものだなあと感じ入りました。インドも中国も正にそうで、それらの国々からは 1 学年に千万人単位で勉強熱心な優秀な人材が毎年出てくるのです。
- (10)翻って、日本の大学はどうかということですが、日本は成熟した国ですのでそれほどはやらなくてもよいかもしれません。インドや中国、ベトナム、台湾、シンガポールなどの新興国の皆さんは、何のために勉強するのか・何のために高等学校や大学に行くのか・何のために仕事をするのかなどの目的意識がはっきりしています。個人はもちろん、国の目的意識も明確になっていて、「貧困の撲滅のため」という崇高な目的のために勉強している国もたくさんあります。ですから、日本の学生も頑張らざるを得ないと私は思います。
- (11)ところで、私は、先週の木曜日に埼玉県狭山市にある西武文理大学に行ってきました。多くの大学では、大学の先生方は、どのように勉強を教えたらよいかなどについて研究をしています。それを FD(Faculty Development ファカルティ・ディベロプメント)と言います。西武文理大学でもこの FD、つまり教授会の質的な向上を目的に講演会を催しておられます。私は、その講師として招かれ、多くの先生方の前でお話をさせていただきました。その講演の内容を少し紹介いたします。
- (12)大学教育で最も大事なことは、社会的および職業的に自律した人間を育てることです。そのために、文部科学省は大学の設置基準を作り直して、キャリアガイダンス(キャリア教育)をするようにし、平成 23 年からそれを発足しました。私はそれを受けてどのように実施したらよいかについてお話をしました。私が、社会にとって一番大事だと思うことは、「規律ある人間」が「規律ある考え」に基づいて「規律ある行動」をすることです。そのためには、大学では自分自身をコントロールできる規律ある職業人を養成することが求められます。そこで、大学生である間は高い志を持って勉強し、社会に出てからは、大学での勉強をもとにして社会的および職業的に自

分自身を律しながら社会生活を営んでいける人間を育てることが大事であるというお話をさせていただきました。

(13)ちなみに、「自律」の「律」の漢字は自分自身で立つという意味の「立」ではありません。「律」、つまり、自分自身を律する、セルフ・コントロールする、制御するという意味の「律」です。

(14)近年は就職難ですので、大学の先生たちも必死になって自分たちの大学をよくし、社会で求められる人間を育てようとしています。そこで、社会で求められる人間とはどのような人間なのかを知るために、私が招かれたのではないかと思います。

### 3. おわりに

(1)放送をお聴きの皆様も、身近にこれから就職する方がいらっしゃったら、本をよく読んで思慮深さを身に付け、新聞をじっくり読んで自分で考える力・社会で通じるような考えを持った人間に育てていただきたいと思います。

(2)ポイントは、自分自身を律しながら、つまり自律的に行動する能力を身に付けることだと私は考えます。

皆様はどのようにお考えでしょうか。

— 2012年8月29日加筆・訂正 林明夫 —